



循環型社会の構築

循環型社会を実現するには、有限である資源を効率的かつ持続可能な形で利用しなければなりません。東海理化グループで生産する自動車部品には、金属、樹脂、溶剤など、さまざまな資源を利用しているため、各プロセスにおいて資源の有効利用を進めています。

リサイクルしやすい製品設計と技術開発の推進

製品の解体性向上やリサイクル材活用技術の開発に取り組み、循環型社会の形成に寄与する製品づくりを進めています。

樹脂成形廃材のリサイクル利用

射出成形によりコネクタを生産する際に発生する樹脂成形廃材は、再粉砕し補強材と混合することで、リサイクル材として再利用しています。2017年度は、約36tのリサイクル材を利用しました。

リサイクル材利用
約**36**t/年

リサイクルの流れ



生産活動における排出物の低減と資源の有効利用

生産の歩留り改善など、3Rの徹底による廃棄物の排出量低減を継続的に取り組んできました。その結果、2017年度は、廃棄物排出量の原単位目標を達成することができました。

廃棄物排出量と原単位の推移



2017年度目標値 **2.33**t/億円 > 2017年度実績値 **1.82**t/億円

プレートロック材料の歩留り改善

従来は、板状の素材がつながった状態で各工程を加工する順送加工で生産していました。順送加工の場合、製品のつなぎとなる部分が必要なため、歩留りが悪くなってしまう。そこで、素材を棒状素材にし、それを直接掴んで各工程を搬送するトランスファ加工にしました。これにより搬送のためのつなぎとなる部分がなくなり、歩留りを20%から50%に向上させることができました。

素材の形状変更によるスクラップ低減



材料歩留り
約**30%**向上

生産活動における水使用量の低減

水需要の増加により、水不足の問題が世界中で深刻化しています。東海理化では、水が貴重な資源であるという認識を持ち、利用効率の向上や再利用化などにより、水使用量の低減に取り組んでいます。

めっき工程廃水の再利用

めっきの処理工程では、有害物質を含んだ廃水が出るため、イオン交換塔にて処理を行うことで有害物質を取り除き、処理水を工程内で再利用しています。

リサイクル率
40%



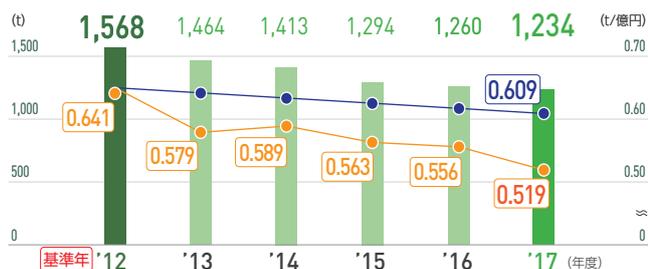
イオン交換塔



物流活動における梱包・包装資材の低減と資源の有効利用

荷姿のシンプル化や梱包資材のリターナブル化など、資材の使用量低減に取り組んできました。その結果、2017年度は、梱包・包装資材使用量の原単位目標を達成することができました。

梱包・包装資材使用量と原単位の推移



コネクター出荷用包装資材のリユース化

コネクター出荷に使用するキャリアテープ用樹脂製リールは、従来使い捨てにしていたため、リユース化に取り組まれました。キャリアテープの巻き付け工程が遠方の工場のため、返却輸送コストが課題となり一度は断念しましたが、近隣の工場へ工程変更することにより課題を克服し、リユース化を実現することが出来ました。

樹脂製リールのリユース化

